

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

海田町立海田東小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	78	87	97	87	80	78	507	22	529
学級数	3	3	3	3	3	3	18	5	23

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	B	専科	C	A	A	専科	専科	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	専科	B	推進	専科	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	専科	C	推進	専科	専科	C	専科	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：D)	E	専科	D	D	専科	専科	専科	専科	D	D	D	D	専科
6年2組 (担任：E)	E	専科	D	推進	E	専科	E	専科	E	E	E	E	専科
6年3組 (担任：F)	F	専科	F	推進	専科	専科	専科	専科	F	F	F	F	専科

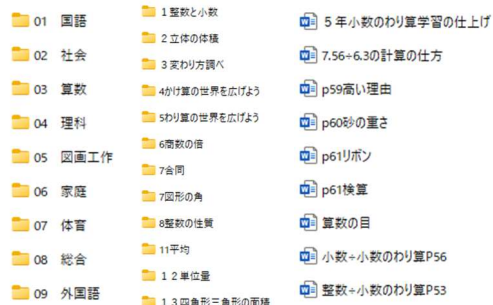
4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

①授業の質の向上、④教師の負担軽減

- ・作成した教材（電子データ）の共有フォルダーを作成し、必要な時に利用できるようにした。
- ・教材の印刷を学年分まとめてする。
- ・学年間のつながりを意識した指導
- ・算数担当の担任との相談・連携
- ・担任による宿題を通した指導



②多面的な児童理解

- ・担任との児童の様子交流（日々）
- ・児童・学級の困り感を担任と交流等により手立てを考える。
- ・学年間での教科担任制による児童の直接理解、指導

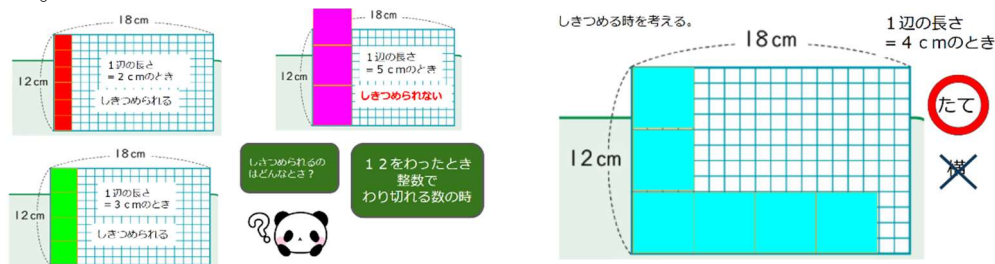
③小・中学校の円滑な接続

- ・教科担任制による担任以外の教諭との人間関係・授業づくりの経験を積む。

<成果>

①授業の質の向上、④教師の負担軽減

- ・資料の作成・印刷をまとめてすることで、担任の時間的負担軽減につながった。
- ・学年をまたがって指導することで、教材間のつながりが意識でき、つまづきを少しでも軽減するために前学年から積み上げておきたいことを意図的に指導できる。（例：線分図）
- ・算数担当の担任との相談・連携により、教材の捉え方、つまづきへの対応交流による授業改善、単元の流れ・個人で作成したパワーポイント教材の共有等による指導効果の向上が図れた。



- ・担任も宿題を通して、個別に算数の指導にかかわることを通して、学力的にしんどい児童の基礎学力向上につながった。

「抽出児童の算数科テストにおける知識・技能の点数」（小数第2位四捨五入）

	1 学期	2 学期
A 児の平均点	72.2	82.8
B 児の平均点	83.3	91.2
学級平均点	88.9	89.9

②多面的な児童理解

- ・発表をする児童が限られている困り感を担任と共有。担任による「発表回数を調べる取り組み」開始。発表する児童増。
 - 多様な考え。教え合い、声掛け応援により、学級全体の学びに向かう風土の醸成
 - 個人の変化・がんばりが見えた。（それを担任、学級全体で共有）

- ・配慮を要する児童と担任との関係作り→担任が児童の不満に寄り添いつつ、間に入り調整→経緯を知ったうえで、児童への声掛けの内容を考慮できた。
- ・教科担任制により、他学級でも授業することで、児童との人間関係ができ、学年として対策を考えたり、必要に応じて、担任とともに指導にあたったりすることができた。

⑤その他

- ・担任以外の教員が、一緒に学年部に所属して話をする機会がもてたので、孤立感がなく、安心して業務を行うことができた。

<課題>

①授業の質の向上

- ・思考力の向上に個人差が大きい。
- ・「個別最適な学び」の場での個への対応
- ・「協働的な学び」の場で、発言する児童に限られ、みんなのものになりにくい。

②多面的な児童理解

- ・配慮を要する児童（学級への影響が大きい、発達障害、学力等）との人間関係構築



<対策>

①授業の質の向上

- ・算数科で付きたい力、求められている力と、その中で弱い力（思考力）について、児童に伝えることで、意識の上での変革を図った。
- ・児童が直接聞ける場（教師、児童同士、グループ）の確保。
それでも、それに参加しようとしないう児童に対して、担任との連携、指導の依頼。
また、来年に向けて、ICTで理解度別のヒントカードのようなものを作成して、児童が自分で選んでそのヒントをもとに自力解決に向かえるようにする方向で、研究を進める。

レベル①

包帯A、Bどちらが良く伸びるでしょうか？
包帯Aは、10cmから40cm、包帯Bは20cmから60cm伸びます。

包帯A

のばす 前 のばした 後
10cm→40cm

包帯B

のばす 前 のばした 後
20cm→60cm

レベル②

野菜が値上がりしています。あるお店では、レタスとキャベツの値段を下のように値上げしました。どちらの方が大きく値上がりしましたか。

レタス(1こ)		キャベツ(1こ)	
150円 ⇒ 300円		50円 ⇒ 200円	

- ・学級ごとに学びに向かう風土づくりに取り組む。
ICTを利用して、自分の考えを投稿する形で授業に参加できる機会を増やす。

②多面的な児童理解

- ・担任への相談・連携により、個別に話のできる場を設けてもらい、少しずつ歩み寄りを図った。
- ・できていないことや児童に目を向けすぎず、がんばっていることや児童に目を向け、肯定的評価による学級集団作りから、個の変容を図る。